

研究チームの紹介コーナー

配電部
技術グループ

1 研究基本方針

配電部門においては、「電力の安定供給」という変わらぬ使命を果たしつつ、競争を勝ち抜く低コスト体質を目指し、既設設備の寿命延伸や設備の老朽化に対応した保全技術の開発を実施することとしています。

また、分散型電源の多様化、連系数の増加および地球環境問題に対するお客さま意識の高まり等々、社会環境の変化に柔軟に対応するために必要となる技術開発についても、厳選し推進することとしています。

具体的には、以下の4つの項目を柱とした技術開発に取り組んでいます。

1 競争力強化のための技術開発

TOC(Total Owning Cost)による機器用品コストの低減
設備建設・維持作業の省力化・効率化
既設設備の有効活用
絶縁協調・保護協調等による配電設備の合理化
既設設備の寿命評価・寿命延伸化技術
業務の高度化・効率化

2 環境保全に関する技術開発

廃棄物の排出抑制・削減技術
作業現場における環境配慮技術

3 お客さまから選択されるための技術開発

電力自由化への対応技術
総合エネルギー管理技術

4 総合的なエネルギー供給に関する技術開発

電力品質の維持管理技術
配電系統の最適運用技術
新配電系統の構築・運用技術

特に、技術グループでは、「1 競争力強化のための技術開発」「2 環境保全に関する技術開発」を重点的に取り組んでおり、配電部門技術特集でご紹介した研究成果は、配電費削減メニューとして反映しております。

2 メンバー紹介

技術グループは、昨年7月の組織改定により新たに自動化チーム(旧自動化グループ)が加わり、グループ長以下20名(専門課長1名、用品チーム10名、施工技術チーム3名、自動化チーム5名)の構成となっています。

総勢20名の大所帯ではありますが、『不言実行(または有言実行)』を座右の銘として、各人が与えられた役割の100%達成を目指すとともに、グループ全員が一枚

岩となって、配電部の示す戦略や方針を確実に遂行するよう努めています。

また、地場産業をはじめとする取引先各社に対しては、当社の良きパートナーとして、お互いの信頼関係の構築を大切に接することとしています。



3 近況報告「ネガティブコストの抑制」

配電設備は支持物269万本、高低圧電線延長52万kmと膨大な数であり、それらはお客さま宅や道路などの生活空間に密接して広く施設されています。そのため、配電用品の老朽化や不具合により、供給信頼度の低下や公衆災害を誘発する恐れがあります。

また、電力自由化をはじめ、社会情勢の変化に伴う事業統合等の製造者における各種合理化策の進展により、配電用品の品質および長期的な性能を如何に維持するかが課題となっています。

技術グループでは、このような実情を踏まえ、不具合等により発生するネガティブコスト(非生産的対応費用)を撲滅・抑制するため、配電用品の品質管理の維持向上に積極的に取り組んでいます。

とりわけ、仕様変更時においては、材料変更等による品質および長期性能への影響評価や、評価結果にもとづく製造工程への管理項目の反映等、製造者におけるノウハウ的な内容についてもきめ細かく確認し、配電用品を供給する製造会社をも含めた、ネガティブコストの撲滅・抑制に努めています。